

第2回 長野広域連合ごみ処理施設整備計画等専門委員会議事録

[日 時] 令和4年6月24日(金) 14:00~16:15

[会 場] ながの環境エネルギーセンター

管理棟3階 会議室

※オンライン併用 (Zoom 使用)

[出席者] 専門委員 5名
オブザーバー 1名
長野広域連合 5名
八千代エンジニアリング株式会社 6名

委員会議事録概要

1. 開会

2. あいさつ

3. 議題

(1) 報告事項について事務局から説明後、意見を伺った。

ア 今後のスケジュールについて

【委員】第3回委員会(現地確認を含む)の日程については、後日スケジュール調整し、可能であれば2日連続で行うこととする。

イ 計画埋立容量及び必要敷地面積の修正について

【委員】埋立高さは各候補地の敷地面積によって決まるものであり、記載されている埋立高さは根拠がないため、注意書きで根拠を示して欲しい。

【事務局】標準的な敷地面積を算出するために、環境省のデータベースを基に埋立高さを設定している。一番重要なのは計画埋立容量を確保することであるため、施設配置構想図を作成する際は候補地ごとに最適な埋立高さを設定する予定である。誤解がないように注意書きで示すこととする。

【委員】流域面積は場所に応じて決まるものであるが、クローズド型の流域面積がオープン型の流域面積の半分になっているのはなぜか。

【事務局】場所ごとではなく、仮定の条件設定を基に算出した標準的な埋立面積から流域面積を算出したためである。計算方法や根拠を注意書きで示すこととする。

(2) 協議事項について事務局から説明後、意見を伺った。

ア 評価項目・評価方法・評価基準について

【委員】評価項目ごとの重み付けは行わないのか。自然条件、環境条件を重要視していると考えられるが、防災関係も地域にとっては非常に重要であると思う。

【事務局】事務局としては点数化しない方針であるが、重み付けを加えた評価をお願いしたいと考えているため、委員の皆様の意見を伺いたい。

- 【委員】今回の評価は必須項目（法規制、文化財の有無等）についてのスクリーニングは終わった後の評価なのか。
- 【事務局】砂防指定地、地すべり防止地区に該当している候補地はあるが、各自治体から推薦のあった候補地であるため、文化財等の規制のない場所だと理解している。
- 【委員】各自治体から推薦のあった候補地ではあるが、確認の意味を含めて必須項目についても評価項目として挙げるのが望ましい。
- 【委員】法規制をまとめた表と照らし合わせ、問題ないか確認すること。
- 【事務局】いただいた意見を基に評価項目を見直す。
- 【委員】必要面積が取れるかの判断はどこで行うのか。
- 【事務局】絶対条件は埋立容量（約 16 万 m^3 ）であるので、容量確保の是非について、施設配置構想図を作成した上で確認する。
- 【委員】施設配置構想図を作成後、整備が困難であるといった点については「整備計画の容易性」の項目で評価を行う理解で問題ないか。
- 【事務局】施設配置構想図を作成し、留意点や課題を明確にした上での評価と考えており、そのような理解で問題ない。
- 【委員】敷地面積は評価項目に入らないのか。
- 【委員】評価の前提条件として、敷地面積を入れておいてはどうか。
- 【事務局】各候補地の敷地面積は、今後の地元との交渉の中で変更があるものと考えているため評価項目に含めていないが、評価項目とするかコンサルと協議の上、検討する。
- 【委員】景観への配慮や土地の改変度も重要であるため、その評価項目も必要と考える。
- 【委員】どのように設計すれば地元が良い方向となるのかを含めて検討すること。
- 【委員】地質に関して軟弱層に注目した評価項目としているが、硬い岩の有無についても考える必要があるため注意すること。また、積雪については評価基準の差は何なのか。
- 【事務局】積雪の評価基準については、相対的に候補地を比較するための項目である。
- 【委員】相対的評価とした場合、差を示す根拠がない。データを示す程度でもいいのか。
- 【事務局】冬期間も安全に運搬できるか、積雪状況に関しては考慮しなければいけないと考えている。評価方法について、コンサルと再度検討する。
- 【委員】防災面も非常に重要であるため、重点項目に入れるべきだと考える。また、土石流についても、下流域との関連について調査すること。
- 【委員】土石流や地すべり等、内容的に変わらない項目が複数あるため、安全性を担保する項目といった形でまとめてもらいたい。また、埋立地を造る際の地質調査については、透水層や岩盤の有無を確認することから、土地の安定性についての項目を加え、評価するべきである。透水層、地下水がある場合、漏れた際のリスクに備え、下流域との関係についての評価軸も必要と考える。
- 【事務局】地形・地質については、最終処分場を造る上でのリスクの有無に着目した項目出しとしている。軟弱層や透水層があっても、施工方法を工夫することでリスクを抑えられると考えている。地形地質の評価項目については、土石流や下流の土地利用といった観点を含め、再度検討する。

【事務局】地すべりなどの危険な場所も、処分場を建設することで改善される可能性があるということも含めて審議いただきたい。

【委員】点数化しない評価方法も一般的であるのか。

【事務局】一般的である。なお、今回は処分場建設に当たって可能性の高い場所を評価、選定していただくものと考えている。

【委員】評価方法としては点数化しない方法で行うこととする。

イ 候補地の現況報告（文献調査）

【委員】経済条件は施設整備費と維持管理費で評価することとなっている。調査内容では進入道路の記載のみだが、施設配置構想図の作成後に施設整備費と維持管理費の概算が算出される理解で問題ないか。

【事務局】そのような理解で問題ない。

【委員】施設配置構想図を作成するに当たり、地質や地下水などの情報は必要ないのか。

【事務局】文献調査と現地調査の結果を踏まえ、ある程度の想定の中で施設配置構想図を作成する。

【委員】「地質の状況」の調査資料に「等」と記載があるが、用いた資料が分かるのであれば全て記載すること。また、現地調査方法で「露頭から地質構成を確認」と記載があるが、軟弱層の有無を露頭で確認するのは現実的ではない。

【事務局】確認の上、記載方法を修正する。

【委員】「生活環境への影響」に関して、500m 以内の社会的配慮が必要な施設、公的な施設を確認の上、具体的な施設名を記載するなど、記載方法を工夫すること。

【委員】地域住民への説明資料として、分かりやすくまとめた資料とすること。

4. 連絡事項、その他

5. 閉会

以上